



青山学院大学大学院

文学研究科

2021

AOYAMA
GAKUIN UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF LITERATURE

- 英米文学専攻
- フランス文学・語学専攻
- 日本文学・日本語専攻
- 史学専攻
- 比較芸術学専攻



研究科長の挨拶



大学院では専門性の高い学問研究を行います。文学研究科には、英米文学、フランス文学・語学、日本文学・日本語、史学、比較芸術学の各専攻が設置されています。それぞれの専攻のアプローチを通じ、学部の勉強と比べはるかに高度で深く広範な専門知識と、正確な方法論と実践手法を身につけます。それによって、人間の文化的・社会的な営みについての学問、すなわち人文科学をいっそう深めることができます。研究科で身につけた力により、その後さらに専門性を高めた学術的な研究に進む道も開けますし、あるいは深めた最先端の学問と学識を用いて、教育、NPO、ビジネスなど、さまざまな実践的分野での社会活動に進む道も準備されます。

専門的な学問を深めるというのは、まずアカデミズムという学問体系の場に蓄積されてきた膨大な先行研究の知識の中から、自分の関心を具体化するのに必要な知見を探しだすこと。次にそれらと向き合いつつ、今現在の自分が何を識っていてこれからどこに行きたいのか、自分の立ち位置をはっきり認識すること。そして自分と同じ関心に導かれた多くの先行研究から、できる限りの知識と智恵を学び取り、論文と真剣に対話しながら乗り越えて、最後にはあなたという人間だからこそ創り出せるオリジナリティーによる新しい知見を、未来に向けて立ち上げてゆく事です。

私たち教員は、そうした学生さんたち一人一人と向き合い、必要と思われるアドバイスをしたり、サポートをしたり、励ましたり、時には一緒に遊びながら(?)、皆さんが結果を生みだすお手伝いをして行きます。研究は目的を共有する仲間との、濃密な対話のようなものでもあります。都内の私立大学との協定による単位互換の履修制度を使えば、専門を同じくする他大学の学生や教員、研究者たちとの交流の機会も生まれます。

現代の社会は、時々刻々押し寄せる膨大な量のデータや情報を、的確に取捨選択して処理しながら、まるで走るように生きてゆかねばなりません。芸術表現や学問の背後から立ち現れる膨大な歴史と知識に向かい合って、こんな悠長なことをしていて良いのだろうか、と疑問が湧くかもしれません。けれど、このような激動の時代だからこそ、急速な変化を遂げる情報テクノロジーの表面下にある本流を見据えることが、大切だとも言えるのです。歴史に積み重ねられた、一人一人の人間が生きることの意義や本質、そして社会の意味に対する、確固たる批判的な理解力と洞察力を身につけること。それがこの急変化の先にある未来を見通し準備することを可能にするでしょう。みなさんが、そのようなパースペクティブを備えた、意欲的な研究や学位論文を創り出してくださるのを、期待しています。

文学研究科長

伊達直之

Contents

研究科長の挨拶	01	日本文学・日本語専攻	09	修了生からのメッセージ	16
研究科概要	02	史学専攻	11	大学院進学について	17
英米文学専攻	03	比較芸術学専攻	13	大学院生生活の支援	18
フランス文学・語学専攻	07	在学生の学生生活	15		

研究科概要

目的

文学研究科は、各専攻の目的に沿って、修士・博士学位申請論文などの作成に結実する研究指導を通じて、高度な専門性を有し、同時に広く社会に貢献できるような大学院生の育成を目的としています。

特色

文学研究科は、英米文学専攻、フランス文学・語学専攻、日本文学・日本語専攻、史学専攻、そして比較芸術学専攻という、5専攻からなっています。これらすべての専攻は、人文学の伝統という同じ一つの根を共有し、それが文学研究科の明確な特色を形作っています。各専攻の内部は、具体的な研究対象によってさらに細かい領域に区分されています。文学系の専攻における文学・文化・思想の研究と言語の研究などの区分がそれです。どの領域においても学生は、自らの研究対象や研究方法を革新しつつ高度な研究を行う一線の研究者と、先進的な研究活動を共有することができます。



相互啓発的な学習研究活動とその支援

文学研究科では、学生の自主的な、また相互啓発的な学習と研究の活動を重視しています。そのために、全専攻が、教員と大学院生、それに学部学生を会員とする学会組織を有し、研究紀要、会報の発行、講演会、大会、研究会の開催等を行っています。大学院生は、その運営と実施の主役です。全国規模の学会での発表に旅費を補助するなどの支援を行っている学会もあります。また、首都圏の主要私立大学の同系統専攻と単位互換を中心とする協定を結び、他大学院の優れた研究者から指導を受けることができるだけでなく、他大学院生と互いを磨きあう環境が整備されています。

つねに新しいキャリアを目指して

文学研究科では、近年着実に博士学位取得者が増加しています。これは大学院生の研究が着実に実を結んでいることの現れですが、また年若い大学院生が研究者としてのキャリアへの第一歩を、この研究科から確かに踏み出しつつある証でもあります。その一方で、すでに社会的キャリアを積まれた方々が、さらに新しいキャリアを志向することを歓迎して、文学研究科は複数の専攻（英米文学専攻、日本文学・日本語専攻、史学専攻）の博士前期課程に社会人入試制度を設け、また英米文学専攻では昼夜開講制をとっています。



英米文学専攻

Department of English and American Literature, Graduate School of Literature

英文学、米文学、英語学、英語教育学・コミュニケーションの分野で、豊富できめ細かい指導を行います。

英文学、米文学、英語学、英語教育学・コミュニケーションの分野で、豊富できめ細かい指導とカリキュラム編成がなされています。また、博士前期課程では、大学院英文学専攻課程協議会(英専協)に加盟する他大学院(上智、聖心女子、津田塾、東京女子、東北学院、東洋、日本女子、法政、明治、明治学院、立教)で委託聴講生として修得した単位は、10単位を限度として修了要件単位に算入できます。コミュニケーション領域においては、言語使用者の諸属性を含

めたコンテキストの中での言語現象に関する研究、通訳理論研究や通訳訓練の英語教育への応用、英語話者の言語・非言語コミュニケーションの分析など、多様な演習と講義を開講しています。博士前期課程では、2019年度入試から「内部進学入試(学内進学者選抜)」を、2020年度入試から「一般入試・A方式」「一般入試・B方式」を実施し、より多くの方に最適な入試方式を選択してもらえるよう、複数の入試方式を並列させています。

Curriculum		授業科目		単位
博士 前期課程	基礎科目	基礎演習(1) I 基礎演習(2) I・II		2 各2
	専門科目 英文学	イギリス詩A研究 I・II、同演習 I・II イギリス詩B研究 I・II、同演習 I・II イギリス小説A研究 I・II、同演習 I・II イギリス小説B研究 I・II、同演習 I・II イギリス小説C研究 I・II、同演習 I・II イギリス小説D研究 I・II、同演習 I・II イギリス演劇A研究 I・II、同演習 I・II イギリス批評A研究 I・II、同演習 I・II		各2
	専門科目 米文学	アメリカ詩A研究 I・II、同演習 I・II アメリカ小説A研究 I・II、同演習 I・II アメリカ小説B研究 I・II、同演習 I・II アメリカ小説C研究 I・II、同演習 I・II アメリカ小説D研究 I・II、同演習 I・II アメリカ小説E研究 I・II、同演習 I・II アメリカ小説F研究 I・II、同演習 I・II アメリカ演劇A研究 I・II、同演習 I・II		各2
基礎科目	4単位以上	音声学研究 I・II、同演習 I・II 音韻論研究 I・II、同演習 I・II 英語統語論研究 I・II、同演習 I・II 英語意味論研究 I・II、同演習 I・II 文法論研究 I・II、同演習 I・II 古・中英語研究 I・II、同演習 I・II 英語史研究 I・II、同演習 I・II 第二言語習得論研究 I・II、同演習 I・II		各2
専門科目	講義・演習を含めて26単位以上	英語教育論研究 I・II、同演習 I・II 初等英語教育論研究 I・II、同演習 I・II コミュニケーションA研究 I・II、同演習 I・II コミュニケーションB研究 I・II、同演習 I・II コミュニケーションC研究 I・II、同演習 I・II コミュニケーションD研究 I・II、同演習 I・II コミュニケーションE研究 I・II、同演習 I・II コミュニケーションF研究 I・II、同演習 I・II コミュニケーションG研究 I・II、同演習 I・II		各2
研究指導	8単位以上	Thesis Writing I・II		各1
	合計38単位以上	研究指導演習 I・II・III・VI		各2

Curriculum		授業科目		単位
博士 後期課程	専門科目	総合研究・総合演習を含めて4単位以上		
	研究指導	研究指導演習 V 研究指導演習 VI		各2
		研究指導演習 VII 研究指導演習 VIII		
	研究指導演習 IX 研究指導演習 X			

博士後期課程入学者は研究指導教員を定め、その指導のもとに研究主題を選び所定の単位・研究指導を修得のうえ(16単位以上)、博士学位申請論文を提出してその審査および最終試験に合格し、ほかに2外国語の認定審査に合格しなければ

ならない。なお、在学期間に関しては、修得単位数を除く右記の要件を満たせば標準3年以内でも修了することが可能である。3年以内に修了する場合は、在学年数に応じた単位数を修得すればよいものとする。



教員紹介

英文学



麻生 えりか Erica Aso

【イギリス小説】

慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程満期退学。専門は現代イギリス小説。主な研究テーマはアウトサイダーと戦争の表象。共著書に『終わらないフェミニズム——「働く」女たちの言葉と欲望』（研究社、2016年）、『戦争・文学・表象——試される英語圏作家たち』（音羽書房鶴見書店、2015年）、『もっと知りたい名作の世界⑥ ダロウエイ夫人』（ミネルヴァ書房、2006年）など。訳書に『テロリズム——その論理と実態』（青土社、2004年）、共訳書に『D・H・ロレンス全詩集』（彩流社、2011年）など。



Thomas Dabbs トマス ダブス

【演劇・文化研究】

My training and teaching is primarily Shakespeare and Early Modern drama. I also teach the English Bible. My research and recent publication has been on using digital humanities platforms to examine the rise of secular drama during the Elizabethan period.



伊達 直之 Naoyuki Date

【イギリス詩・文化研究】

専門は英詩・英語詩と「詩学」。19世紀から20世紀の英国・アイルランド文化研究。言語、美術、建築、映像、音楽、アニメ等様々なメディア表象の文化論的研究。現在のテーマは戦争表象における倫理の働きや、日本、ヨーロッパ、米国詩歌の比較研究。共著書：『戦争・詩的想像力・倫理』、『戦争・文学・表象——試される英国圏作家たち』、『ギリシア劇と能の再生』など。論文：『Ezra Pound and American Little Magazines, 1912-1919』（英国ヨーク大学 Ph.D. 学位論文）など。



久野 陽一 Yoichi Kuno

【イギリス小説】

主にイギリス 18 世紀—17 世紀終わりの名誉革命体制から 19 世紀初頭までを含めた「長い 18 世紀」—の文学を、社会や文化の問題も重ねながら読んでいきます。イギリス近代小説勃興論、在英黒人文学・文化、オリエント物語などに関心があります。共著に『ローレンス・スターンの世界』（開文社出版、2018年）、翻訳書に『アフリカー人、イクイアーノの生涯の興味深い物語』（研究社、2012年）など。



松井 優子 Yuko Matsui

【イギリス小説】

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程満期退学。専門はイギリス小説・文化。現在は主に、小説ジャンルの展開や文化的アイデンティティとの関係について、特にロマン主義時代からモダニスト・ルネサンス期にかけての歴史小説の受容を中心に研究しています。著書に『スコット』（勉誠出版、2007年）、共（編）著に『憑依する英語圏テクスト』（音羽書房鶴見書店、2018年）、『読者ネットワークの拡大と文学環境の変化』（2017年）など。



笹川 渉 Wataru Sasakawa

【イギリス詩】

初期近代イギリス文学、特にジョン・ミルトンを始めとする、エリザベス朝から王政復古期までの作家による韻文を専門としています。文学と政治・宗教の関わりについて、同時代の印刷本の図版や絵画も手がかりにしながら考察しています。共著書：『Spenser in History, History in Spenser』（大阪教育図書、2018年）、『17世紀の革命／革命の17世紀』（金星堂、2017年）、『十七世紀英文学を歴史的に読む』（金星堂、2015年）など。



田中 裕介 Yusuke Tanaka

【イギリス文学・文化】

一橋大学大学院言語社会研究科博士課程修了（学術博士）。専門は、イギリス 19 世紀の文学・文化。現在は主に、オスカー・ワイルドの著作を、歴史学、文献学、人類学、古典学との関係において研究する。共著に、『混沌と抗戦——三島由紀夫と日本、そして世界』（水声社、2016年）など。翻訳書に、フランク・トレントマン『フリートレイド・ネイション』（NTT 出版、2016年）、フランコ・モレッティ『ブルジョワ』（みすず書房、2018年）など。



橋本 智弘 Tomohiro Hashimoto

【グローバル文学】

専門はポストコロナル文学／理論。ナショナリズムと文学的想像力の連関に一貫した興味を持っています。現在は、グローバル化のなかでナショナリズムがいかに変質しているか、ポストコロナル研究の見地から近年の世界文学論へどのように介入できるか、エコロジーの問題をポストコロナル作家がどうやって扱っているか、などを考察しています。共著に『クリティカル・ワード 文学理論』（フィルムアート社、2020年）、『ノーベル文学賞にもっとも近い作家たち』（青月社、2014年）。

教員紹介

米文学



外岡 尚美 Naomi Tonooka

【アメリカ演劇】

ハワイ大学大学院博士課程修了 (Ph.D.)。専門は演劇学、特に 20 世紀から現代までのアメリカ演劇とパフォーマンス・アートを研究対象としています。最近のテーマは 20 世紀後半以降の舞台芸術における苦痛の表象およびリベラリズムについて。授業ではモダンドラマの古典的名作から前衛劇までを演劇の諸理論をふまえながら読みます。共著『戦争・詩的想像力・倫理』、『(都市)のアメリカ文化学』、『ギリシア劇と能の再生—声と身体—』、『境界を越えるアメリカ演劇』等。



西本 あづさ Azusa Nishimoto

【アメリカ小説・文化研究】

専門はアフリカ系アメリカ文学・文化研究。アメリカ文学・文化におけるキャンオン形成、人種表象、多民族国家における記憶と歴史表象、文化的帰属の研究。現在のテーマは、公民権運動後のアフリカ系アメリカ文学・文化形成と時代の相関関係の分析。共著書：『新たなるトニ・モリスン』、『ターミナル・ビギニング』、『カリブの風』他。訳書：『アメリカ先住民の宗教』、『トニ・モリスン—寓意と想像の文学』(共訳)、『世界文学史はいかにして可能か』(共訳)他。



Mary A. Knighton メアリ A. ナイトン

【アメリカ研究・文学】

アメリカ地域／リジョナリズムとグローバルモダニズム (日本文化も含む) との絡み合いのほか、ポストコロナ理論やフェミニスト理論・文学批評などが関心の対象です。In English, let me add here that my research in recent years has focused on print culture, particularly illustration and cover art, together with the business of the literary book. In Japanese and English both, I continue to research and work on environmental issues, too, as they intersect with my book project on insects (and *mush*) in Japanese literature.



齊藤 弘平 Kohei Saito

【アメリカ小説・文化研究】

19-20 世紀のアメリカ文化、小説、知識史を対象とし、いかにして美と価値、生と性、健康と病氣、自己と他者等々を巡る、近代的な「知」の構造が生産されたか、共有されたか、あるいは放棄されたか復活したか? を研究しています。文学や映画から大衆音楽や家電製品まで、広くアメリカ文化全般について、歴史的な実証研究と理論的な分析研究の両輪をほどよいバランスで回転させられるように、いつも研究者としてのふれない体幹を磨いています。専門は 19 世紀末の心理学、20 世紀アメリカのリアリズムおよびモダニズム小説、20 世紀後半 (ポスト構造主義以降) の批評理論です。最近では、障害学 (disability studies) の観点から、アメリカ文学・文化における身体表象について考えることをプロジェクトにしています。



結城 正美 Yuki Masami

【アメリカ研究・文学】

ネヴァダ大学リノ校大学院博士課程修了 (Ph.D.)。専門は、エコクリティシズム、環境文学研究。比較研究的・学際的見地から、汚染と食の言説、リスク感覚の多元的表出、人新世をめぐる文学的課題等に取り組んでいます。著書『水の音の記憶—エコクリティシズムの試み』(水声社、2010 年)、共編書 *Ecocriticism in Japan* (Lexington, 2018)、共著書 *The Routledge Companion to the Environmental Humanities* (Routledge, 2017)、*A Global History of Literature and the Environment* (Cambridge UP, 2017) 等。



若林 麻希子 Makiko Wakabayashi

【アメリカ小説・文化研究】

ニューヨーク州立大学バッファロー校大学院博士課程修了 (Ph.D.)。専門はアメリカ小説。現在の研究テーマは、初期アメリカ文学におけるニューヨークの意義について再検討を加えています。他にも、18~19 世紀建国期文学、女性文学、家庭小説、書簡体小説などに関心を持って研究を行っています。共著として『アメリカ文学入門』(三修社、2013 年)、『アメリカン・レイバー』(彩流社、2017 年) 等。



来馬 哲平 Teppei Kuruma

【アメリカ詩】

専門はアメリカ詩。研究テーマは、アメリカ詩人たちを、主にクイア批評の観点から再考すること。論文に "Close, Cool, High": Hart Crane's 'Southern Cross' and Mobilizing a Distant Closeness" (The Journal of the American Literature Society of Japan, no. 14, 2016)、["Thou Shalt Not Always Walk in the Sun": Ezra Pound の『未熟』な主体] (『Ezra Pound Review 第 20 号』, 2018)、["But I Never Knew You Anyway"—SNS 時代の Frank O'Hara] (『日本アメリカ文学会東京支部会報』第 79 号, 2018) など。

英語学



Elin McCready エリン マクレディ

【英語学／言語学】

Thinking about meaning in linguistics and philosophy is a way to access knowledge you didn't know you had: about how you think, about how word interacts with world, about how our views are framed by their language. This course will help you find it.



中澤 和夫 Kazuo Nakazawa

【英語学・言語学】

専門は英語学・言語学。研究姿勢としては記述理論言語学。これは、記述理論の言語学ではなくて、記述言語学と理論言語学の良いところを合わせたものをいう。様々な言語現象を正確に記述・分析して、その分析の妥当性を文法理論の観点から考察する。具体的には、複合語の強勢型、関係節構文、特殊倒置構文、文法的層化現象など。『例解現代英文法事典』『現代英文法辞典』『コンサイス英文法辞典』(以上項目分担執筆)、*A Dynamic Study of Some Derivative Processes in English Grammar* など。



中村 光宏 Mitsuhiro Nakamura

【音声学・音韻論】

ロンドン大学ユニバーシティコレッジ音声学・言語学科博士課程修了 (Ph.D. in Phonetics)。専門分野は音声学・音韻論です。音声産出・知覚機構における調音運動の制御と言語構造との関係を研究しています。話しことばにおける発音変化、音形選択の要因、英語発音の多様性、外国語学習者の音声産出など、言語の観点から音声の調音・音響・知覚の特性を探求し、音声コミュニケーションの仕組みを解明したいと考えています。



高橋 将一 Shoichi Takahashi

【理論言語学】

マサチューセッツ工科大学言語学哲学科博士課程修了 (Ph.D.)。専門は、理論言語学。文などの意味解釈が、言語の構造構築になんらかの形で影響を与えることがあるのかといった統論と意味論のインターフェイスに関わる問題を生成文法理論の枠組みの中で研究しています。特に、移動や削除といった現象に興味があります。詳しい研究内容は、Linguistic Inquiry や Natural Language & Linguistic Theory に掲載されている論文を参照してください。

英語教育学・コミュニケーション



Joseph V. Dias ジョセフ ディアス

【TESOL】

Specialities:

- TESOL; Intercultural Communication
 - CALL コンピューターの長所を活かして語学学習をサポートする教授法
- Research themes:
- * TESOL 他言語話者に対する英語教授法
 - * Investigating how CALL, and mobile technology in particular, can change the role of teachers
 - * Telecollaborative intercultural exchanges



田中 深雪 Miyuki Tanaka

【通訳学・翻訳学、語学教授法】

コロンビア大学大学院修士課程修了（応用言語学・TESOL 専攻）。研究テーマは、通訳・翻訳の理論と実践、教授法など。また通訳・翻訳者の歴史に関する研究も続けている。主な論文として「通訳・翻訳教育の視点から見るリーディング指導への不安 — 「訳す」という活動の扱いをめぐる一」『通訳教育論集』、「長崎における阿蘭陀通詞に関する考察—地役人としての立ち位置とその評価をめぐる一」『通訳翻訳研究』第 15 号など。



大川 道代 Michio Okawa

【パフォーマンス・スタディーズ、スピーチ・コミュニケーション】

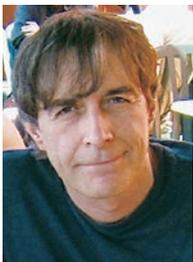
研究テーマは、社会変革のためのパフォーマンスと日常生活におけるパフォーマンス。論文に「リフレクティブ・ティーチングによる授業研究—スピーチとティベートを統合したコミュニケーション教育—」青山学院大学文学部『紀要』第 58 号 61-85 頁（単著）2017.3。著書に「第 8 章 社会変革を目指すパフォーマンスの意義と展開」『第 9 章 フェスティバルで発表された創作台本』『オーラル・コミュニケーションの新しい地平』（増沢泰子、野村和宏、大川道代編著）（単著）2013.6。「はしがき」、『第 11 章 パフォーマンス教育の意義と展開』『オーラル・コミュニケーションの理論と実践』（JACET オーラル・コミュニケーション研究会編著）（単著）2002.8 など。



Andrew Reimann アンドリュー ライマン

【TESOL】

私のおもな研究は社会言語学であり、なかでも異文化コミュニケーションに重点をおいています。英語は世界共通語とされていますが、世界各国の多くの人々が様々な環境や文化をもっているなか、コミュニケーションをとるためには、単に言語だけではなく、その背景になる環境や文化を理解した上で、交流することが重要であります。授業においては、世界の文化を比較し、人々の異なる価値観を理解するために、言語、宗教、歴史、文化、そして世界情勢などについての知識を深めます。



Peter Robinson ピーター ロビンソン

【英語学】

I completed an M.A. in Applied Linguistics at the University of London, and a Ph.D. in Second Language Acquisition at the University of Hawai'i at Manoa. My areas of research are the roles of attention and awareness in implicit and explicit language learning; individual differences in cognitive abilities for learning; and effects of the cognitive complexity of task demands on interaction, learning and speech production.



横谷 輝男 Teruo Yokotani

【英語学】

専門領域は英語音声学・音韻論で、語強勢や音節付与が主たる興味の対象と言えます。ただ、近年は綴り字と発音の規則への関心が強く、生成音韻論的な接近方法を採用入れた「実用的な規則集」の作成に動じることが多いです。最近の著作としては、本学の英文学会誌や紀要に投稿した「弱母音の ⟨u⟩ のための発音規則」（2017 年）、「⟨e, i⟩ が引き起こす硬口蓋歯茎化のための発音規則」（2018 年）があります。



稲生 衣代 Kinuyo Ino

【通訳学】

タフツ大学フレッチャ―法律外交大学院修了。専門は通訳学。通訳実務経験に基づき研究を進め、現在の研究テーマは、放送ジャーナリズムにおける通訳、通訳教育、職業としての通訳。共著に『英語通訳への道』（大修館書店）、『VOA スペシャル』（コスモピア）など。



野邊 修一 Shuichi Nobe

【非言語コミュニケーション、言語心理学】

シカゴ大学（The University of Chicago）大学院心理学研究科認知・コミュニケーション学専攻修了（Ph.D.）。流通科学大学専任講師、青山学院大学専任講師を経て、同教授。最近の論文等として、「ジェスチャー」（針生（編）『言語心理学』朝倉書店）、「言語とジェスチャー」（重野（編）『言語とところ』新曜社）、「身振りと言語発達」（岩立・小椋（編）『よくわかる言語発達』改訂新版』ミネルヴァ書房）がある。



小野寺 典子 Noriko Onodera

【語用論・社会言語学】

米国ジョージタウン大学大学院言語学部博士課程修了（Ph.D. 言語学）。専門は、言語学・語用論・談話分析・社会言語学・歴史語用論（文法化・意味変遷等）。主な著書 Japanese Discourse Markers (Benjamins 2004 年)、単編著書『会話のはじめと終わり』（ひつじ書房 2017 年）、共編著書『歴史語用論の方法』（ひつじ書房 2018 年）、Journal of Historical Pragmatics 17.2 号 特集 Periphery (周辺部) (2016 年) ほか。特に、英日語会話の談話構造に関心があり、共時的・通時的研究をしています。コミュニケーションの中で繰り返し使われてきた表現がなぜ定型化するのか、といった点なども考察しています。



木村 松雄 Matsuo Kimura

【英語教育学】

東京大学教育学部附属中等学校文部教官教諭・東京大学教育学部講師を経て現職。NHK ラジオ英語講座「基礎英語1」等 3 番組の講師（13 年）、文部科学省中学校英語検定教科書『New Horizon English Course』編著者（30 年）、文部科学省高等教育局大学設置審議委員会審議委員（外国語）、全英連全国高等学校「英語スピーチコンテスト」審査委員、東京都庁「英語村（Tokyo Global Gateway）」事業審査委員、大学英語教育学会（JACET）本部理事・関東支部長等を歴任。一貫制英語教育・言語学習方略・CLIL 等を研究。



アレン玉井 光江 Mitsue Allen-Tamai

【英語教育学】

テンブル大学大学院教育学研究科・博士後期課程修了。教育学博士（Ed.D.）。専門は小学校英語教育、第二言語習得。研究テーマは児童の英語リタラシーの発達と英語習得における Storytelling の効果。著書に『小学校英語の教育法—理論と実践』（2010、大修館）、『Story Trees』（2013、小学館集英社プロダクション）、『New Horizon』（編集委員 2016、東京書籍）。



寺澤 盾 Jun Terasawa

【英語史・中世英語英文学】

ブラウン大学大学院博士課程修了（Ph.D.）。専門は英語史、中世英語英文学。英語が辿ってきた 1500 年余りの歴史を研究している。世界に拡がった英語の多様性にも関心をもつ。著書として『英語の歴史』（中央公論新社 2008）、『聖書でたどる英語の歴史』（大修館書店 2013）、『英単語の世界』（中央公論新社 2016）など。他に中世英詩韻律を扱った研究もある：Nominal Compounds in Old English (Rosenkilde and Bagger, 1994), Old English Metre: An Introduction (University of Toronto Press, 2011).

フランス文学・語学専攻

Department of French Literature, Language, Graduate School of Literature

充実した専任教員スタッフがフランス文学の多彩な時代と分野をカバーし、フランス語を学問的に研究する体制も整備されています。

1966年の創設以来、フランス文学・語学専攻は、文学を通しての人間探求を謳う学科理念に拠りつつ、高い人文的教養を積み、広い批評的視点に立って問題を把握しうる研究者の養成を心がけてきました。リベラルな知の精神が常に本専攻の根幹をなしています。

充実した専任教員スタッフがフランス文学の多彩な時代と分野をカバーし、フランス語を学問的に研究する体制にも不備はなく、フランス語を母語とする教員による授業も複数置かれています。教員と学生の間には活発な知的交流をはかり、開かれた学問の場であろうと努めています。

Curriculum

博士前期課程

学生は標準2年以上在学し、下表に示す所定の単位を修得したうえ、修士学位申請論文または特定の課題についての研究の成果を提出してその審査および最終試験に合格しなければならない。修了方法（修士学位申請論文または特定の課題についての研究の成果）は、研究指導教員と協議のうえ1年次の終わりまでに決定することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

	単位数	備考
基礎科目	6単位以上	「基礎演習(1)」2単位以上、「基礎演習(2)」4単位以上を修得。「基礎演習(2)」についてはI、IIの両方を修得しなければならない。
専門科目	修士学位申請論文を提出する場合 講義・演習を含めて 26単位以上 特定の課題についての 研究の成果を提出する場合 講義・演習を含めて 34単位以上	研究指導教員および当該授業科目担当者の許可を得た文学研究科の他専攻および他研究科の授業科目は、10単位に限り修了要件単位として認める。
研究指導	8単位以上	2年以内に修了する場合は在学期間に応じた研究指導の単位を修得するものとする。
合計40(または48)単位以上		

	授業科目	単位
基礎科目	基礎演習(1) I	2
	基礎演習(2) I・II	各2
専門科目	中世文学・語学研究 I・II、同演習 I・II	各2
	16世紀フランス文学・語学研究 I・II、同演習 I・II	
	17世紀フランス文学・語学研究 I・II、同演習 I・II	
	18世紀フランス文学・語学研究 I・II、同演習 I・II	
	19世紀フランス文学・語学研究 I・II、同演習 I・II	
	20世紀フランス文学・語学研究 I・II、同演習 I・II	
	フランス語学研究 I・II、同演習 I・II	
	フランス言語文化研究 I・II、同演習 I・II	
	フランス詩研究 I・II、同演習 I・II	
	小説研究 I・II、同演習 I・II	
17世紀フランス思想研究 I・II、同演習 I・II		
現代フランス思想研究 I・II、同演習 I・II		
研究指導	研究指導演習 I・II・III・VI	各2

Curriculum

博士後期課程

博士後期課程入学者は研究指導教員を定め、その指導のもとに研究主題を選び所定の単位・研究指導を修得のうえ（16単位以上）、修士学位申請論文を提出してその審査および最終試験に合格し、ほ

かに2外国語の認定に合格しなければならない。なお、在学期間に関しては、修得単位数を除く右記の要件を満たせば標準3年以内でも修了することが可能である。3年以内に修了する場合は、在学年数に応じた単位数を修得すればよいものとする。

	授業科目	単位
専門科目	特別演習 I および II	4単位以上
研究指導	研究指導演習 V	各2
	研究指導演習 VI	
	研究指導演習 VII	
	研究指導演習 VIII	
	研究指導演習 IX	
	研究指導演習 X	

教員紹介

フランス文学



久保田 剛史

Takeshi Kubota

【16世紀文学・思想】

ルネサンス期における神学・哲学的思想の流れを捉えながら、モンテーニュを中心とした16世紀フランス文学を研究しています。



秋山 伸子

Nobuko Akiyama

【17世紀フランス文学】

モリエールを中心に17世紀演劇や小説を研究。演劇への関心は17世紀にとどまりません。



井田 尚

Hisashi Ida

【18世紀文学・思想】

百科全書派のデイドロを中心に、啓蒙期と呼ばれる18世紀フランスの思想と文学を多面的に研究しています。



露崎 俊和
Toshikazu Tsuyuzaki

【19世紀文学・詩】
19世紀の社会や歴史との関係を踏まえながら、ボードレールや同時代の他の作家たちを読んでいます。



荒木 善太
Zenta Araki

【近代フランス文学】
19世紀の旅行記を中心に、場所や風景といったテーマに関心を持って調べています。



和田 恵里
Eri Wada

【20世紀小説】
20世紀の小説、とくにマルセル・ブルースト。第三共和政における社会の変化と文学の関係にも関心があります。



濱野 耕一郎
Koichiro Hamano

【20世紀文学・思想】
ジョルジュ・バタイユの作品を中心に、20世紀の文学・思想を研究しています。



阿部 崇
Takashi Abe

【20世紀文学・思想】
文化全般との関わりを重視しながら、フーコーを中心としたフランス現代思想を研究しています。



Marion de Lencquesaing
マリオンド・ランクザン

【17世紀フランス文学】
特に聖人伝など宗教的物語作品を研究しています。



福田 美雪
Miyuki Fukuda

【19世紀文学】
エミール・ゾラに代表される自然主義文学を中心に、主に19世紀の文学と美術のかかわりを研究しています。

フランス語学・フランス文化



近藤 野里
Nori Kondo

【フランス語学】
フランス語の発音の歴史的变化や様々な国・地域で話されるフランス語の多様性について研究しています。



金子 真
Makoto Kaneko

【フランス語学】
冠詞の用法、複数名詞の表すものなど、主にフランス語の名詞句に関わる現象を、他の言語と比較しながら扱っています。



France Dhone
フランスドルヌ

【日仏対照言語学】
日本語とフランス語を比較しながら、発話理論について研究しています。



Sylvain Adami
シルヴァン アダミ

【フランス語教育】
フランス語のオンライン教育とeラーニングを研究しています。現代フランス社会の政治、文化を中心に地政学も研究しています。

日本文学・日本語専攻

Department of Japanese Literature and Language, Graduate School of Literature

日本文学・日本語・漢文学・日本語教育と幅広い研究領域をカバー。
各専門分野における最先端の研究を踏まえたきめの細かい指導が行われています。

日本文学・日本語学・中国古典学・日本語教育学と幅広い研究領域をカバーする講座が開かれ、それぞれの専門分野における最先端の研究を踏まえたきめの細かい指導が行われています。また今日の学際的かつ脱領域的な研究状況にも対応できる

よう、専門に応じて教員個人に学生が張りつく細分化された縦割りの組織ではない、リベラルで柔軟な集団指導体制が組まれています。

Curriculum

博士 前期課程

学生は標準2年以上在学し、講義・演習を含めて合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、一般入学試験を経て入学した者は修士学位申請論文を、社会人入学試験を経て入学した者は特定の課題についての研究の成果をそれぞれ提出してその審査および最終試験に合格しなければならない。なお、社会人入学試験を経て入学した者が修士学位申請論文を提出して審査を受けることも可能であるが、その場合、最終試験のほか1外国語の認定に合格しなければならない。また、右記30単位以上のうち研究指導教員および当該授業科目担当教員の許可を得た文学研究科の他専攻および他研究科の授業科目は10単位以内に限り修了要件単位として認める。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

授業科目	単位
上代文学研究(一) A・B、同演習(一) A・B	各2
中古文学研究(一) A・B、同演習(一) A・B	
中古文学研究(二) A・B、同演習(二) A・B	
中世文学研究(一) A・B、同演習(一) A・B	
中世文学研究(二) A・B、同演習(二) A・B	
近世文学研究(一) A・B、同演習(一) A・B	
近世文学研究(二) A・B、同演習(二) A・B	
近代文学研究(一) A・B、同演習(一) A・B	
近代文学研究(二) A・B、同演習(二) A・B	
近代文学研究(三) A・B、同演習(三) A・B	
日本文学研究(一) A・B、同演習(一) A・B	
日本文学研究(二) A・B、同演習(二) A・B	
日本語学研究(一) A・B、同演習(一) A・B	
日本語学研究(二) A・B、同演習(二) A・B	
日本語学研究(三) A・B、同演習(三) A・B	
中国古典学研究 A・B、同演習 A・B	
日本語教育学研究 A・B、同演習 A・B	

Curriculum

博士 後期課程

博士後期課程入学者は研究指導教員を定め、その指導のもとに研究主題を選び所定の単位・研究指導を修得のうえ(16単位以上)、修士学位申請論文を提出してその審査および最終試験に合格し、ほかに2外国語の認定に合格しなければ

ならない。なお、在学期間に関しては、修得単位数を除く右記の要件を満たせば標準3年以内でも修了することが可能である。3年以内に修了する場合は、在学年数に応じた単位数を修得すればよいものとする。

授業科目	単位
専門科目	講義・演習を含めて4単位以上
研究指導	〇〇特殊研究指導(一) A、B 〇〇特殊研究指導(二) A、B 〇〇特殊研究指導(三) A、B
	各2

教員紹介

日本文学

日本文学

上代
飛鳥・奈良時代の文学



独創的な研究のための苗床

小松 靖彦 Yasuhiko Komatsu 【上代文学】

『萬葉集』と萬葉学史(特に中世の萬葉学、および近代の戦争下の萬葉集受容)、書物学、文学交流についての研究を進めています。授業では、従来の研究の枠組みに捉われない、若い感性に基づく研究のサポートをしています。調査・研究・論文作成の基本的技術とともに、広い視野を身に付けてもらいます。海外の若手研究者とも交流する機会もあります。

中古
平安時代の文学



知の歴史に自ら参画する試み

高田 祐彦 Hirohiko Takada 【中古文学】

平安時代の文学が、千年もの時の隔たりを越えて現代に生きるわれわれに関わるのは、なぜでしょう。そこには、われわれの日常をあらためて見直させる別次元の世界が展開されているからです。そうした新鮮な世界を発見するためには、自分で調べ、考えてゆく営みが欠かせません。その過程をとおして、多くの先人の精神の軌跡に立ち会い、自ら知の歴史に参画してください。

討論から生まれる思考と議論の技術

土方 洋一 Yoichi Hijikata 【中古文学】

文学作品の本文とは何か、作品を〈読む〉とはどのような行為か、そのような本質的な問題を意識しつつ、テキストを精読します。また学生相互の討論を通して、論理的に考え、根拠を示して自説を主張する、思考と議論の技術を身につけてもらうことも目標にします。





日本文学

中世

鎌倉・南北朝室町時代の文学



人はなぜ戦うのか

佐伯 眞一 Shinichi Saeki 【中世文学】

『平家物語』などの軍記物語は、戦乱の時代に生きる人々のさまざまな姿を描きます。そうした人々の姿を見つめていると、人はなぜ戦うのかという古くて新しい問いかけが、あらためてわいてきます。そんな問いをかかえながら物語を読んでゆくことは、人間というものについての深い思索へと展開してゆきます。

近世

江戸時代の文学



江戸の魅力

大屋 多詠子 Taeko Oya 【近世文学】

江戸時代後期を代表する曲亭馬琴は、伏線が凝らされた伝奇歴史小説である読本（よみほん）をはじめ、様々なジャンルを執筆しています。当時の風俗・演劇に取材するのみならず、和漢の古典作品を踏まえており、小説に娯楽と教養を求める読者に応えた作品となっています。馬琴を入りに、江戸文学の多彩な魅力を伝えていきたいと思っています。

近現代

明治時代以降の文学



近現代文学を〈考える〉

片山 宏行 Hiroyuki Katayama 【近現代文学】

文学はビジネスだろうか？電子書籍は「本」だろうか？ベストセラーは名作か？著作権という権利の本質はなにか？英文訳された『羅生門』は日本文学か？作家は読者より上位なのか？メディアは文学の質を変えるか？「文学賞」の存在意義とは？「リアル」と「リアリティー」の本質とは……。こんなことを考えながら私は研究しています。



「今」の起源を探る体験へ

佐藤 泉 Izumi Sato 【近現代文学】

近代の小説には、汽車や女学生が登場します。あるいは、「恋愛」、「労働」、「社会」や「国家」という言葉が登場します。その全てがこの時代にはまだ生まれればかりの新しい思想でした。そこには「今」の起源が埋め込まれています。「今」をとらえかえすために、文学の言葉に向かいあってみましょう。

中国古典文学

漢文学



漢文の魅力、奥深さに触れる

山崎 藍 Ai Yamazaki 【中国古典文学(漢文学)】

主な研究対象は六朝から唐代の詩と小説です。授業では原典精読に加え、先人達によって積み重ねられてきた注釈や最新の研究成果を取り上げますので、批判的に分析してみましよう。日本文学に色濃く影響を与えた漢文の魅力、奥深さに触れて頂ければと思います。

日本語研究

日本語研究



現代日本語の理論的追求

近藤 泰弘 Yasuhiro Kondo 【日本語学】

現代日本語の文法を考察することが近藤ゼミの課題である。とくにコンピュータを利用して、数百万語単位の用例を分析し、それによって全く新しい文法規則や単語の意味を解析してゆくことを目標としている。私のゼミでは、現代日本語のあらゆる側面について、コンピュータネットワークなどの最新の機材を用いて、純粋な理論的追求と技術の実用化への応用の両面から研究を行ってゆきたい。

日本語教育研究

日本語教育研究



日本語教育学の多角的アプローチ

田中 祐輔 Yusuke Tanaka 【日本語教育学】

当研究室では、日本語教育学の観点から、日本語の語彙文法の計量分析、コースデザインと教材利用、コーパス分析と開発、日本語教育の現状調査、日本語教育史の理解、日本語教科書開発など、通時的・共時的視点と質的・量的分析手法から多角的にアプローチし、理論と実践の両面から深い学びを実現する場を提供します。同時に、日本語教育を通じた国際文化交流や、持続可能な多文化共生社会の構築も視野に入れた総合的考察にも取り組みます。

削ぎ落として残るもの

山本 啓介 Keisuke Yamamoto 【和歌文学】



和歌は31文字、俳句は17字、連歌の短句はわずか14字。夏休みの作文は長い方がほめられそうですが、日本文学の軸であった短詩形文学は、あり余る思いを、ごく限られた枠の中に託してきました。言葉に溢れた現代の我々が、時代も隔たった詩を理解するには相應の修練が必要でしょう。でも、それを乗り越えたときに、削ぎ落とされた故に残った彼らの世界が開けてくるのかも知れません。

近世の演劇を読み解く

韓 京子 Kyoungja Han 【近世文学】



人形浄瑠璃や歌舞伎にはあらゆる時代・階層の人々の姿や価値観、社会が描かれています。そのため幕末以降日本を訪れた外国人は、これらを材料として日本・日本人を理解しようとしてきました。近世の演劇を都市空間や歴史の表象、思想、さらに日本の表象という観点から読み解き、その魅力を探っていききたいと思います。

夏目漱石から村上春樹まで

日置 俊次 Shunji Hioki 【近現代文学】



居場所を求める作者のあかき作品として結実し、それが読者に届いたとき、作者は読者の中に居場所を見出します。それは同時に作品を通して、読者の側からの居場所探し、自分探しの旅の始まりでもあります。文学をこのように揺れつづけるコミュニケーションの空間として捉えるひとつの視点を提示できればと思います。夏目漱石から現代の村上春樹まで、広く深くとりあげて論じていきます。

史学専攻

Department of History, Graduate School of Literature

広い分野を包括する研究体制が特色。

博士後期課程に進み、優れた研究により博士の学位を取得する院生も増加しています。

史学専攻の特徴は何よりも広い分野を包括している点にあります。博士後期課程に進み、優れた研究により博士の学位を取得する院生も増加しています。他方で、博士前期課程修了後、研究を活かして高校教員、公務員、学芸員、出版関係の職種を目指す

ものも少なくありません。学内では「青山史学会」での活動、学術雑誌『史友』、『青山史学』への研究論文の投稿など教育・研究の発展のために貢献しています。なお、博士前期課程では、一般入試に加えて、2022年度入試から「内部進学入試」を実施します。

Curriculum

博士前期課程

学生は、標準2年以上在学し、講義や演習をあわせて30単位以上習得します。加えて、必要な研究指導を受けて、修士学位申請論文または特定の課題についての研究成果を提出して審査および最終試験に合格し、ほかに1外国語の認定に合格すると、「修士（歴史学）」の学位が与えられます。修了要件の30単位のうち、研究指導教員および当該授業科目担当教員の許可を得て、文学研究科の他専攻および他研究科の授業単位を10単位以内に限り認められます。修了方法は、研究指導教員と協議のうえ1年次の終わりまでに決定します。なお、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すればよいものとする措置も用意されています。

	授業科目	単位
日本史部門	日本史研究Ⅰ A・Ⅰ B、同演習Ⅰ A・Ⅰ B 日本史研究Ⅱ A・Ⅱ B、同演習Ⅱ A・Ⅱ B 日本史研究Ⅲ A・Ⅲ B、同演習Ⅲ A・Ⅲ B 日本史研究Ⅳ A・Ⅳ B、同演習Ⅳ A・Ⅳ B 日本史研究Ⅴ A・Ⅴ B、同演習Ⅴ A・Ⅴ B 日本史研究Ⅵ A・Ⅵ B、同演習Ⅵ A・Ⅵ B 記録史料論研究A・B、同演習A・B	各2
東洋史部門	アジア史研究入門A・B、同演習A・B アジア史における社会と国家研究A・B、同演習A・B アジア史における社会と経済研究A・B、同演習A・B アジア史における社会と文化研究A・B、同演習A・B グローバル・アジア史研究A・B、同演習A・B	各2
西洋史部門	西洋古代史研究A・B、同演習A・B 西洋中世史研究A・B、同演習A・B 西洋近現代史研究Ⅰ A・Ⅰ B、同演習Ⅰ A・Ⅰ B 西洋近現代史研究Ⅱ A・Ⅱ B、同演習Ⅱ A・Ⅱ B 西洋近現代史研究Ⅲ A・Ⅲ B、同演習Ⅲ A・Ⅲ B 西洋政治史研究A・B、同演習A・B 西洋社会史研究A・B、同演習A・B 西洋文化史研究A・B、同演習A・B	各2
考古学部門	日本考古学研究Ⅰ A・Ⅰ B、同演習Ⅰ A・Ⅰ B 日本考古学研究Ⅱ A・Ⅱ B、同演習Ⅱ A・Ⅱ B 東洋考古学研究A・B、同演習A・B	各2

Curriculum

博士後期課程

博士後期課程入学者は、研究指導教員を定め、その指導のもとに研究主題を選び、所定の単位・研究指導を修得のうえ(20単位以上)、博士学位申請論文を提出してその審査および最終試験に合格すれば、「博士（歴史学）」の学位が与えられます。なお、在学期間に関して、3年以内に修了する場合は、在学年数に応じた単位数を修得すればよいものとされています。

出してその審査および最終試験に合格すれば、「博士（歴史学）」の学位が与えられます。なお、在学期間に関して、3年以内に修了する場合は、在学年数に応じた単位数を修得すればよいものとされています。

	授業科目	単位
専門科目	講義・演習を含めて8単位以上	
研究指導	〇〇研究論文指導演習(一) A、B 〇〇研究論文指導演習(二) A、B 〇〇研究論文指導演習(三) A、B	各2

経済支援について

青山学院は、2019年全国にさきがけて開始した「院生助手」の雇用制度、採用者に授業料年額の全額を給付する「若手研究者育成奨学金」(博士後期課程)、青山学院スカラシップ(冠奨学金)、外国人留学生のための支援奨学金など、さまざまな経済支援制度が充実しており、史学専攻の院生も毎年受給しています(院生助手は昨年度2名、他は毎年1~2名の受給実績)。

教員紹介

日本史



岩田 みゆき

Miyuki Iwata

【日本史(近世)】

日本史演習ⅢA、同B

テーマ「幕末期における風説留の研究」①幕末期における在地社会の情報の問題を「風説留」から検討する。②幕末期の「風説留」の解読と内容の検討を行う。原文書の解読を行う。



北村 優季

Masaki Kitamura

【日本史(古代)】

日本史演習ⅠA、同B

『類聚三代格』などの古代史関係の史料をとりあげ、それらについて毎回学生に発表を課していきます。



小林 和幸

Kazuyuki Kobayashi

【日本史(近代)】

日本史研究ⅣA、同B

近代日本史に関わる様々な一次史料(政治家の日記、書翰、公文書など)を参加者の担当を決めて読解すると共にその史料を詳細に検討する。また参加者各自の研究報告を行い、参加者による質問ならびに討議を行う。



小宮 京
Hitoshi Komiya
【日本史（現代）】
日本史演習VA、同B
日本現代史の史料を読み、政治史への理解を深める。参加者の研究課題に関する報告を行い、討議を通じて、理解を深める。



藤原 良章
Yoshiaki Fujiwara
【日本史（中世）】
日本史研究IIA、同B
日本中世史に関する史料の講読、ならびに、個人の研究発表表を通じて、修士論文の完成を目指す。

西洋史



阪本 浩
Hiroshi Sakamoto
【西洋史（古代）】
西洋古代史演習A、同B
古典古代（ギリシア・ローマ）史研究の演習です。A（前期）はアレクサンドリア史をテーマとします。毎回、報告者が半シニア史料を提示して研究発表し、それについて全員で討論します。B（後期）はローマ元首政をテーマとします。毎回、報告者がラテン語の史料を提示して研究発表し、それについて全員で討論します。碑文、貨幣が主な史料になることもあります。



稲垣 春樹
Haruki Inagaki
【西洋史（近代・現代）】
西洋近現代史演習I A、同B
テキストの輪読によりイギリス史およびイギリス帝国史の研究動向を検討する。また、各自の研究課題について報告し、全員で議論する。



安村 直己
Naoki Yasumura
【西洋史（近代・現代）】
西洋近現代史研究III A、同B
南北アメリカ大陸から近世ヨーロッパ世界の展開を再検討することで、各自のテーマに関し、新しい視点を獲得してもらおう。



割田 聖史
Satoshi Warita
【西洋史（近代・現代）】
西洋近現代史研究II A、同B
ヨーロッパ近現代史に関するテキストを輪読する。また、各自の研究報告を行う。



菊地 重仁
Shigeto Kikuchi
【西洋史（中世）】
西洋中世史演習 A、同B
テキストの輪読を通じて、西洋中世研究で用いられている様々な用語・概念の再検討、史料論的考察、最新の研究動向の把握などに取り組む。

東洋史



青木 敦
Atsushi Aoki
【東洋史（古代・中世）】
グローバル・アジア史研究A、同B
文献学・資料検索・アジア史料論からなる。古典漢文を読めるようになる。コンパ、図書館参観など課外活動を通じて、学習のための親睦を深める。ユーラシアという単位から、東アジアの人々の歴史を文明的に理解する。



飯島 渉
Wataru Iijima
【東洋史（近代・現代）】
アジア史研究入門演習A、同B
ユニバーサル・ヒストリーの視角から、東アジア・東南アジアの近世・近現代史を対象とし、既存の歴史学、すなわち、日本史・東洋史・西洋史という枠組みを相対化することを試みます。



二宮 文子
Ayako Ninomiya
【東洋史（イスラーム）】
アジア史における社会と文化演習A、同B
この授業は、南アジア・西アジア・中央アジアを対象地域としています。史料・研究文献講読を中心に、半期に1～2回程度の研究発表を行います。

考古学



岩井 浩人
Hiroto Iwai
【考古学（古代）】
日本考古学研究I A、同B
飛鳥時代～平安時代を対象に、考古学の研究方法や発掘成果について理解の充実を図ります。また、大学で実施している発掘調査にも積極的に参加することを望みます。



菅頭 明日香
Asuka Kanto
【文化財科学】
日本考古学研究II A、同B
考古学は「モノ」を対象として研究する学問だからこそ、様々な学問領域から検証が可能です。授業では、自然科学的な手法や、考古学研究の成果や現状を学びます。また、実際に文化財科学的な手法による分析や調査にも参加してもらいます。

比較芸術学専攻

Department of Comparative Arts, Graduate School of Literature

美術・音楽・演劇映像3領域の各専任教員により、芸術の意義や歴史・思想について、比較研究の方法を用いてきめ細かい指導が行われています。

Curriculum

博士前期課程

学生は標準2年以上在学し、下表に示す所定の単位を修得したうえ、修士学位申請論文または特定の課題についての研究の成果を提出してその審査および最終試験に合格しなければならない。修了方法（修士学位申請論文または特定の課題についての研究の成果）は、研究指導教員と協議のうえ1年次の終わりまでに決定することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

	単位数	備考
基礎科目	6単位以上	「比較芸術学研究法Ⅰ」2単位以上、「比較芸術学研究法Ⅱ」2単位以上、「比較人文学研究法Ⅰ」「比較人文学研究法Ⅱ」のうち1科目2単位以上を修得するものとする。
専門科目	講義・演習を含めて24単位以上	研究指導教員および当該授業科目担当者の許可を得た文学研究科の他専攻および他研究科の授業科目は、10単位以内に限り修了要件単位として認める。
研究指導	8単位以上	2年以内に修了する場合は在学期間に応じた研究指導の単位を修得するものとする。
合計38単位以上		

	授業科目	単位
基礎科目	比較芸術学研究法Ⅰ・Ⅱ 比較人文学研究法Ⅰ・Ⅱ	各2
専門科目	日本・東洋美術史(1)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 日本・東洋美術史(2)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 日本・東洋美術史(3)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 西洋美術史(1)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 西洋美術史(2)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 西洋美術史(3)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 日本・東洋音楽史研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 西洋音楽史(1)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 西洋音楽史(2)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 日本芸能論研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 西洋演劇論研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 映像文化論(1)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ 映像文化論(2)研究Ⅰ・Ⅱ、同演習Ⅰ・Ⅱ	各2
研究指導	研究指導演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ	各2

Curriculum

博士後期課程

博士後期課程入学者は研究指導教員を定め、その指導のもとに研究主題を選び所定の単位・研究指導を修得のうえ（18単位以上）、博士学位申請論文を提出してその審査および最終試験に合格し、ほかに2外国語の認定に合格しなければならない。なお、在学期間に関しては、修得単位数を除く右記の要件を満たせば標準3年以内でも修了することが可能である。3年以内に修了する場合は、在学年数に応じた単位数を修得すればよいものとする。

	授業科目	単位
専門科目	比較芸術学研究法A・B各2単位、および比較人文学研究法Aまたは比較人文学研究法Bのうち1科目2単位以上	
研究指導	研究指導演習Ⅴ 研究指導演習Ⅵ 研究指導演習Ⅶ 研究指導演習Ⅷ 研究指導演習Ⅸ 研究指導演習Ⅹ	各2



教員紹介

美術



津田 徹英 Tetsuei Tsuda

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得済退学。のち同大学より博士(美学)を取得。専門は日本彫刻史、密教図像学。とくに平安時代(9～12世紀)の密教彫刻を研究対象にしているが、フィールド・ワークの範囲は、奈良時代(8世紀)の脱活乾漆造の技法研究から、鎌倉・南北朝時代(13～14世紀)の肖像研究(彫刻・絵画)、詞書の筆跡を中心とする絵巻研究に及ぶ。単著に『中世の童子形(日本の美術442)』(至文堂、2003年)、『平安密教彫刻論』(中央公論美術出版、2016年)、編著に『組織論—制作した人々(仏教美術論集6)』(竹林舎、2016年)などがある。



出光 佐千子 Sachiko Idemitsu

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得済退学。博士(美学)。専門は日本絵画史。研究テーマは、江戸時代の水墨画の巨匠・池大雅の風景画をめぐる詩と画の鑑賞サークル。現在は、大雅が憧れた室町水墨画や、近代南画(小杉放庵)、人々の暮らしを描いた風俗画にまで関心が広がる。著書に『大雅・蕪村・玉堂と仙厓—笑のこころ』(出光美術館、2011年)、『没後50年 小杉放庵—く東洋への愛—』(出光美術館、2015年)、共著に『風俗絵画の文化学』I・II・III(思文閣出版、2009年、2012年、2014年)。



水野 千依 Chiyori Mizuno

京大大学院文学研究科美術史学専攻博士後期課程単位取得済退学、フィレンツェ大学、日本芸術振興会特別研究員、京都造形芸術大学教授を経て、2015年より現職。博士(人間・環境学)。専門は、イタリア中・近世美術史・芸術理論。主著・共著に、『カラヴァッジオ鑑』(人文書院、2001年)、『イメージの地層』(名古屋大学出版会、2011年)、『キリストの顔』(筑摩書房、2014年)、主な訳書に、ティティエ・ユベルマン『残存するイメージ』(人文書院、2005年)、セヴェーリ『キマイラの原理』(白水社、2017年)など。『イメージの地層』で、第34回サントリー学芸賞、第1回フォスコ・マラーニ二賞、他受賞。



池野 絢子 Ayako Ikano

京大大学院人間・環境学専攻博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。専門は西洋を中心とした近現代美術・視覚文化。とくに20世紀イタリアの美術を研究している。単著に『アルテ・ポーヴェラ—戦後イタリアにおける芸術・生・政治』(慶應義塾大学出版会、2016年)。共著に中村靖子編『非在の場を拓く—文学が紡ぐ科学の歴史』(春風社、2019年)。分担執筆に岡田温司編『ジョルジョ・モランディの手紙』(みすず書房、2011年)など。

音楽



那須 輝彦 Teruhiko Nasu

立教大学大学院文学研究科博士後期課程退学、ケンブリッジ大学大学院修士課程修了(Master of Philosophy)。中世からバロック時代にかけての音楽、とくにイギリスの教会音楽史と中世の音楽理論を専攻。著作に、『ヘンリ8世の迷宮—イギリスのルネサンス君主』(共著、昭和堂、2012年)、『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』(共著、ミネルヴァ書房、2013年)、『ミクロログス(音楽小論)』(共著、春秋社、2018年)など。青山学院大学聖歌隊指揮者も務める。



広瀬 大介 Daisuke Hirose

国際基督教大学大学院比較文化研究科・博士前期課程修了。一橋大学大学院言語社会研究科・博士後期課程修了。博士(学術)。19世紀後半～20世紀前半の西洋音楽、とくにドイツの作曲家リヒャルト・シュトラウスのオペラ作品を中心に研究を続けている。著書に『帝国のオペラ』(河出書房新社、2016年)、『リヒャルト・シュトラウス 自画像としてのオペラ』(アルテスパブリッシング、2009年)等。訳書にベルリオーズ、シュトラウス『管弦楽法』(音楽之友社、2006年)等。

演劇映像



佐久間 康夫 Yasuo Sakuma

青山学院大学大学院文学研究科博士課程満期退学。ケンブリッジ大学研究員。西洋演劇・イギリス文化専攻。NHKラジオ「ものしり英語塾」でシェイクスピアの講座を担当。著訳書に『心に響け、シェイクスピア』(NHK出版)、『舞台を観る、読む、語る』(ほんのしろ)、『シェイクスピア 人生の名言』(KKベストセラーズ)、ロビン・メイ『世界演劇事典』(開文社)、ロブ・グレーム『演劇の世界』(ほんのしろ)など。



佐藤 かつら Katsura Sato

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士(文学)。鶴見大学文学部専任講師、同大学准教授を経て2012年に青山学院大学文学部に着任。専門は日本芸能史、特に近世近代移行期の歌舞伎。著書に『歌舞伎の幕末・明治—小芝居の時代』(ベリカン社、2010年)、共著に『門朝全集』第一・十・十二巻(岩波書店、2012年・2014年・2015年)等。新潟県生まれ。小さいころから祭礼の芸能を喜んで見物していたことが、今思えば、歌舞伎の研究をしている自分の原点となっています。



三浦 哲哉 Tetsuya Miura

東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース博士課程修了。博士(学術)。専門はフランスおよびアメリカの映画表現論。著書に『ハッピーアワー論』(羽鳥書店、2018年)、共編著に『オーバー・ザ・シネマ—映画「超」討議』(フィルムアート社、2018年)、『映画とは何か—フランス映画思想史』(筑摩選書、2014年)、『サスペンス映画史』(みすず書房、2012年)、訳書に『ジム・ジャームッシュ・インタビューズ』(東邦出版、2006年)。

純粋な探究心を胸に

英米文学専攻 博士後期課程3年

松原 栄子さん

博士前期課程で、現代イギリス作家 Ian McEwan の作品について研究したあと進学した後期では、新しい社会、文化現象を研究したいと考え、20世紀初頭の小説や映画における地下鉄表象の分析をしています。青山学院大学では大学院生の研究活動を支援することを目的とした制度がいくつかあります。幸いなことに、私も「アーリーイーグル研究支援制度」の助成金を受け、昨夏、ロンドンに資料収集と視察の出張に行くことができました。文学研究においては、テキストと向き合うことが最も大切ですが、現地でしかアクセスできない文献を閲覧したり、第二次世界大戦時の地下防空壕等を見ることができ格段に視野が広がりました。帰国後、出張の成果を学会発表、さらに論文としてまとめることができました。私自身は、大学を卒業してから長い年月を経たのち、学びを再開しました。大学院では年齢も職種も様々な人たちが集まっていますが、深く学びたいという思いに違いはありません。ぜひ、あなたも青山学院大学の扉を叩いてください。

研究する、ということ

英米文学専攻 博士後期課程2年

高村 遼さん

「人は優しくなるために勉強するのよ」。エレベーターを待っている間に、とある先生と話している時に言われたことばです。大学院に進学してからは、とにかく知識を増やしていかなければ、とばかり思っていた私には衝撃的でした。それゆえ、勉強・研究することが誰かの心に寄り添えるなどということは全く考えていませんでした。

しかし、よくよく自らの研究を振り返ってみると、言語学の特に、語用論、社会言語学、談話分析は、まさに「人とことば」、「社会とことば」の関係を研究していく学問です。言い換えれば、気持ち良いと思うコミュニケーションのあり方を模索していく分野とも言えるでしょう。

ところが、私たちは、研究は研究という世界でのみ通用するとはばかり思う傾向があるようです。しかし実際のところ、文学、言語学、言語教育にとって、書き手と読み手、話し手と聞き手の存在がなくては成立しません。こうした当たり前のようで、つい見失ってしまう大切なことを気づかせてくれる先生、院生が青山学院大学にはいます。

どうでしょう。「入院」とも揶揄される大学院ですが、研究することも悪くないとは思いませんか。ぜひ、一緒に人の心に寄り添える研究者、真のコミュニケーターを目指しませんか。

大学院のススメ

フランス文学・語学専攻 博士前期課程2年

小山 美穂さん

私は、昔から言葉に強い関心を持っていました。特に似たような意味を持っている言葉の使い分けに興味があり、大学院ではフランス語における希望動詞の比較研究を行っています。本大学院では多岐にわたる分野を専門とされる先生方による高度な講義を受けることができます。学生が専門とする分野はもちろん、それ以外の様々な分野の講義を自由に受け、学ぶことが出来るのは大きな魅力です。私も言語学以外に文学や哲学の講義も受講していました。それによって自分の世界が大きく広がったことを実感しています。さらにはフランス人の先生方による会話や小論文の講義を通して、総合的な語学力を高めることができます。年に一度の「大学院生発表会」は自身の研究成果を発表し、先生方から丁寧なご指導を受けられる貴重な機会でもあります。仏文科で濃密で充実した研究生活を一緒に過ごしてみませんか。

「世界」と繋がる文学研究

日本文学・日本語専攻 博士前期課程2年

新田 杏奈さん

私は現在、比較文学の分野でインドの詩人ラビンドラナート・タゴールの日本の翻訳者達の系譜を研究しています。翻訳者自身が詩人であることも多く、日本文学の知識が大きな意味を持ちます。日本文学の観点から、外国文学との交流を探索することは非常に魅力的です。

私は現在留学を考えています。学際的かつ脱領域的な日本文学研究が行えることが、本学ならではの特長だと思います。院生一人一人の多様な研究関心に即した実践的な指導と、のびのびと研究できる今の環境に大変感謝しています。

大学院では、「学びたい」という気持ちも大事ですが、それ以上に研究したいと心から思える明確なテーマの存在が何よりも重要であると感じています。「誰になんと言われようとこれは自分が明らかにしたい」。そのようなテーマと出会った時、本学文学研究科は皆さんにとって楽しく充実した場所になると思います。

史学専攻での研究生活

史学専攻 博士後期課程1年

齋藤 愛さん

本史学専攻の魅力は、日本史、西洋史、東洋史、そして考古学の様々な分野の専門家から指導を頂くことで、幅広い視野を意識しながら自身の研究に打ち込めることだと感じています。私は考古学の埋蔵文化財に関わる職を志し、さらなる研究能力・技術の向上を目指して本大学院に進学しました。先生方や職員の方々のサポートを頂きながら、発掘現場と大学を行き来する、忙しくも充実した日々を送っています。

また単位互換制度を利用し多数の他大学の講義に参加出来るのも魅力です。実際に他大学の講義を受講する中で、知識を深めたり新しい人脈を形成したりと得るものが豊富です。

史学専攻は一人一人が全く違うバックグラウンドを持ち、全く異なる分野・時代・題材で研究をしています。思いがけない視点からの意見に、新しいヒントを得ることも少なくありません。切磋琢磨しあえる環境で、新たな視点が加わることを楽しみに待っています。

広く深い学びを

比較芸術学専攻 博士前期課程2年

中野 智博さん

私は大学院で明治期の演劇改良運動に関する研究をしています。私が大学院に進学した理由は、学部時代よりも深く芸術を学びたいと思ったからです。ところで、芸術を学ぶというのはよく考えてみると不思議なことですよ。

おまけに「比較」芸術となると、さらに不思議。芸術を生み出すのではなく、分析することはある意味無粋なことでもあります。芸術を学ぶこと、分析することの意味は何か。また比較芸術学と名の付く専攻科で学ぶことの意義は何か。4年間の学びでは、その広く深い世界を垣間見ることはできても、その世界の先を知ることはできません。比較芸術を学ぶには常にアンテナを張り、広い視野を持って学ぶことが重要です。これは容易なことではありませんが、同時にやりがいのあることです。少しでも広く深く芸術を学びたい方、比較芸術を体現したい方、知的好奇心のある方は、ぜひ共にその世界を探究してみませんか。

三足の草鞋生活で得たもの

子どもの英語音声習得の研究をしたく、博士後期入学前から指導教官となるアレン玉井光江先生の授業を聴講させていただきました。入学した翌年に現在の大学専任職に就き、大学教員としての業務、院生としての研究活動、家庭の三足の草鞋生活が始まりました。大学院では年下の同級生と専門知識を一緒に学ぶ喜びを感じ、何よりアレン玉井先生の豊富な初等英語教育の知見・学識や、先生ご自身の実践活動から多くのことを学びました。実際に小学校英語授業を担当しながらデータ収集をし、膨大な量の分析を行い、結果が見えてくるまでに3年間かかりました。博士論文を書き始めると、時間のやりくりが大変苦しましましたが、職場や家族に理解・協力してもらい、章ごとに執筆してはアレン玉井先生に何時間も細部にわたってご指導いただき、書き上げることができました。博士後期課程で専門性を培ったからこそ、現在の職務や研究ができていくと日々実感しています。

河合 裕美さん
(英米文学専攻 博士後期課程2017年修了)
神田外語大学教員

将来に向けて幅広く柔軟な学びを

自分の専門以外についても幅広くかつじっくり学べることが青山の魅力です。授業での議論や課題を通して学んだ知識や研究方法が、留学先での研究や現在の仕事で活かしています。協定校であるパリ第3大学では、学内外の研究者と日々活発な議論を交わす新鮮で刺激的な留学生活を送り、今の自分を支える糧となりました。現地では青山との共同指導の下で博士論文を執筆し、現在も青山の指導教授を通じて研究交流が続いています。

勤務校では、専門のフランス語学だけでなく、フランス語圏の社会・文化、ヨーロッパの言語文化に関する授業を担当する他、協定校との留学・国際交流の業務を担当しています。学外では、島根県日仏友好協会で市の観光課や国際交流課と連携しながら学生とともに地域の国際交流活動を行なっています。研究・教育活動を続ける一方で、国際交流に関する仕事や活動ができるのは、青山での幅広い学びと留学経験があったからこそと日々実感しています。

安齋 有紀さん
(フランス文学 語学専攻 博士後期課程2009年修了)
島根大学教員

貴重な学問的原体験

今、かつての大学院生活を振り返って感じるのとは、とにかく勉強に時間を費やせる期間だったということです。博士前期課程在籍時には演習の発表準備に追われていたこともありますが、学部生時代にお世辞にも研究ときちんと向き合っていたとは言えない私は、他の人に追いつくためにも、ほぼ毎日図書館の閉館時間まで勉強をして、帰宅してからも研究書などを読んでいました。先生や先輩・同輩・後輩たちと行く酒席でも、話題は基本的に研究の話ばかりでしたが、とても楽しい時間でした。こうして自分自身の勉強に加えて、授業内外での先生からの助言や大学院生同士での意見交換によって視野が広がり、自分の研究の核が形作られていきました。これは私にとって貴重な学問的原体験であり、他分野も含めた先生や大学院生たちとも距離が近い青山学院大学大学院の大きな恩恵でした。これから大学院に進学する皆さんにも、実り多き院生生活を送って欲しいと思います。

若松 伸哉さん
(日本文学・日本語専攻 2009年修了)
愛知県立大学教員

「自負」と「努力」を

私は、日本近代史の小林和幸教授のもとで学びました。大学院では、研究発表や論文指導で多くのご指摘をいただきます。研究は一人でもできるかもしれませんが、私は何度もご指導に助けられました。表現しづらい感覚ですが、教授の言葉で「見える世界」が変わる瞬間があります。歴史を一面的にとらえるだけでは気付かなかった別の視点を、教授が提示してくださるからです。私はこの体験を多くの学生にしてもらいたいと思います。

私は博物館で学芸員をしています。大学院での研究に対する姿勢が役立っています。近年、学芸員を取り巻く状況は厳しく課題が山積しています。しかし、私は学芸員が研究者としての自覚を持ち、研究を核として慢心することなく学び続けることが大切だと実感しています。この研究者としての「自負」と「努力」は、どのような仕事に就いても求められる姿勢です。大学院を目指す皆さんは、その時間を大切に、研究に励んでください。

加藤 典子さん
(史学専攻 博士前期課程2012年修了
博士後期課程2018年満期退学)
八王子市郷土資料館勤務

遠道は近道

私は、大学院修士の2年間を振り返り、とても実のある日々であったと感じております。専攻は比較芸術学ですが、私は古典芸能、主に歌舞伎を専攻としておりました。論文は歌舞伎の劇評というものについてですが、大学院生活としては歌舞伎を観ることは勿論、外部の関連講座や催しには積極的に参加しておりました。大学院生活では主に人との繋がりに重きをおき、研究をすることは院生として勿論なのですが、決して広くない歌舞伎研究の世界で社会的経験として大切にしてきた次第です。幼少より歌舞伎を観る環境にあり、現在私はイヤホンガイドという多くは歌舞伎の解説を行っている会社に勤めております。大学院生活での人との繋がりがや経験は、直接的に仕事に繋がっております。今振り返ると大学院生活とは専門分野の追究と共に、自己投資の場であると感じております。兎角、大学卒業後の進路決定を急がれる世の中ですが、「急がば回れ」だと私は思っております。

中嶋 悠喜さん
(比較芸術学専攻 2018年修了)
株式会社イヤホンガイド勤務

大学院進学について

入試制度

■一般入試

- 博士前期課程の一般入試は、秋季（10月）と春季（2月）に実施しています。選抜方法は、外国語、専門知識等の筆記試験と、面接または口述試験、春季は卒業論文審査（英米文学専攻を除く）です。
- 博士後期課程の一般入試は、春季（2月）に実施しています。選抜方法は、筆記試験と面接試験および修士論文審査です。

■社会人入試

- 博士前期課程の社会人入試は、秋季（10月）に実施しています。選抜方法は、外国語（英米文学専攻のみ）、専門知識の筆記試験と、面接試験です。

出願・試験日程を含む入試情報は、[青山学院大学公式サイト \(http://www.aoyama.ac.jp/\)](http://www.aoyama.ac.jp/) より入手できます。

大学院入学試験概要	大学公式サイトより入り 「入試・入学情報」▶「入学試験・入学案内（大学院）」▶「大学院入学試験概要」▶「文学研究科」の順にクリックしてください。
入学試験募集要項（願書）	大学公式サイトより入り 「入試・入学情報」▶「入学試験・入学案内（大学院）」▶「入学試験募集要項（願書）ダウンロード・入手方法」▶「文学研究科」の順にクリックしてください。

大学院在学中に必要な学費等 ※一般入試による2018年度入学者を参考として記載

英米文学専攻

博士前期課程	入学科	授業料	施設設備料	教育活動料	後援会費	校友会費	学会費	計
1年次	290,000円	515,000円	50,000円	10,000円	5,000円	30,000円	2,200円	902,200円
2年次	—	515,000円	50,000円	10,000円	5,000円	—	2,200円	582,200円
2年間の合計	290,000円	1,030,000円	100,000円	20,000円	10,000円	30,000円	4,400円	1,484,400円

フランス文学専攻・日本文学専攻

博士前期課程	入学科	授業料	施設設備料	教育活動料	後援会費	校友会費	学会費	計
1年次	290,000円	515,000円	50,000円	10,000円	5,000円	30,000円	3,000円	903,000円
2年次	—	515,000円	50,000円	10,000円	5,000円	—	3,000円	583,000円
2年間の合計	290,000円	1,030,000円	100,000円	20,000円	10,000円	30,000円	6,000円	1,486,000円

史学専攻・比較芸術学専攻

博士前期課程	入学科	授業料	施設設備料	教育活動料	後援会費	校友会費	学会費	計
1年次	290,000円	515,000円	50,000円	10,000円	5,000円	30,000円	4,000円	904,000円
2年次	—	515,000円	50,000円	10,000円	5,000円	—	4,000円	584,000円
2年間の合計	290,000円	1,030,000円	100,000円	20,000円	10,000円	30,000円	8,000円	1,488,000円

Q&A 大学院に関する質問

Q 修了要件（週に何回くらい通えばよいのか）を知りたい。

A 修了要件は専攻により異なります。また、研究科によって講義開講の時間が異なるなど特色があります。学務部教務課各研究科窓口までお問い合わせいただくことをお勧めいたします。

Q 私費留学生向けの奨学金はありますか。

A 文部科学省外国人留学生学習奨励賞、外国人留学生グローバル奨学金、民間育英団体奨学金、青山学院大学学業成績優秀者表彰制度（副賞として20万円を授与）があります。貸与奨学金はありません。詳細については学生生活部学費・奨学金課および国際センターまでお問い合わせください。

Q 入学試験の過去問題は見ることはできますか。

A メールにてお送りしております。本学HP「大学院入学試験に関するお問い合わせ」に記載のある、文学研究科のEメールアドレス迄、氏名、ご所属、ご希望の専攻を記載のうえ、ご連絡ください。

Q 修士・博士前期課程に入る前に研究生として在籍できますか。また、研究生として留学ビザは申請できますか。

A 修士・博士前期課程への入学前段階での研究生制度はありません。

Q 入学試験出願前に教員に連絡をとる必要がありますか。（または、会いたいけれどどうしたらよいですか。）

A 修士課程・博士前期課程において入学試験出願前に教員に連絡をとる必要はありません。博士後期課程に関しては専攻によって決まりがありますので各研究科担当者までお問い合わせください。

大学院生生活の支援

■ 奨学金制度

青山学院ではさまざまな奨学金制度を設けています。原則4月に募集を行い、書類・面接選考を経て採用が決定しますが、採用人数には限りがあります。

日本学生支援機構奨学金(貸与)

目的 人物、学業ともに特に優れかつ健康であって経済的理由によって修学に困難があると認められた者に対して学資金を貸与し、教育・研究者、高度の専門性を要する職業人の養成を目的としています。

種類 第一種奨学金(無利子)、第二種奨学金(有利子)

貸与月額

奨学金	博士前期課程・修士課程	博士後期課程
第一種	50,000円または88,000円	80,000円または122,000円
第二種	50,000円 130,000円	80,000円 150,000円
	100,000円 より選択	

貸与期間 採用時より修了時までの標準修業年限

青山学院万代奨学金(貸与)

目的 この奨学金は、故 万代順四郎氏の提唱により設立され、前途有望な学生で、経済上の理由により修学困難な者に無利子で貸与されるものです。日本学生支援機構奨学金との併用はできません。

貸与月額 85,000円

貸与期間 採用時により修了時までの最短修業年限博士前期・博士後期課程

青山学院大学経済支援給付奨学金(給付)

目的 この奨学金は、経済的理由により学費支弁が困難な学生に対し、経済的な支援を行うことによって成業が見込め、学業を終えることができる環境を整えることを目的としています。緊急不測の事態等により、学費等の支弁が困難となった学生に対して、随時申請可能な制度もあります。

資格 本学に在籍する学生で、給付奨学金の支給により成業が見込める者を対象としています。

給付額 1年間の学費相当額限度

給付期間 採用年度限り

青山学院スカラーシップ奨学金(冠奨学金)(給付)

この奨学金は、寄付者の名称を冠した給付の奨学金制度として設立され、学業成績、人物ともに優秀で、経済的理由により修学継続が困難な者、課外活動の分野で活躍する者、ボランティア活動を行っている者等に給付します。給付額、条件等の詳細につきましては学生生活部 学費・奨学金課までお問い合わせください。

地方公共・民間育英団体の奨学金(貸与・給付)

募集期間、内容等の詳細については、学生生活部 学費・奨学金課にお問い合わせください。

青山学院大学学業成績優秀者表彰制度

目的 学業成績が優秀と認められた者に対して表彰を行うことにより、将来、社会および文化の発展向上に寄与する人材の育成に資することを目的としています。副賞として学資金が授与されます。

資格 本学に在籍する2年次以上の正規生(外国人私費留学生を含む)で学業成績が優秀と認められた者を対象としています。※候補者は大学で選考します。

副賞 200,000円(年額)

給付期間 採用年度限り

青山学院大学若手研究者育成奨学金

目的 青山学院大学大学院において、博士後期課程又は一貫制博士課程に優秀な学生を受け入れ、又は若い人材の本大学院への進学意欲若しくは本大学院に在学する学生の学修意欲を増進させ、もって本大学院の活性化を促進し、高度な専門性と研究能力を備えた社会に貢献する若手研究者の育成に資することを目的とします。

資格 次の(1)~(3)のすべての条件を満たしている者

(1) 次のいずれかの条件を満たす者

- イ 本大学院の博士後期課程に入学する者
- ロ 本大学院の一貫制博士課程の3年次に編入学する者
- ハ 本大学院の一貫制博士課程に在学する者で、3年次に進級する者

(2) 奨学金の給付を受ける初年度の4月1日時点で満30歳未満である者

(3) 国費留学生でない

給付額 授業料年額の全額

給付期間 博士後期課程の標準修業年限
一貫制博士課程の3年次~5年次(3年間)

■ ティーチング・アシスタント制度

ティーチング・アシスタント制度は、大学院生が教員の指導のもと学部学生等に対する助言や実習等の教育補助業務を行い、大学院生の教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当てを支給し、大学院生の研究活動を支援することを目的とした制度です。

■ 院生助手制度

博士後期課程の大学院生を「院生助手」として雇用する制度があります。「院生助手」として、教育研究の実務経験を積むことができる機会を設け、これに経済的支援を行うことによって、大学院生が研究に専念できる環境を提供し、研究者としての能力を磨くことを目的としています。「院生助手」として任用された大学院生は、研究を優先しつつ、学部生の授業や実習の補助、学会活動や国際会議の運営など、ティーチングアシスタント(TA)より高度な教育研究の補助業務を行います。

■ その他の支援

■ 外部試験受験支援

■ 学会発表支援

学習環境

PC、LAN環境の整った大学院生共同研究室等充実した学習環境があります。

【青山学院スクール・モットー】

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

キャンパスMAP



周辺MAP



青山キャンパス

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

- JR山手線、JR埼京線、東急東横線、東急田園都市線、京王井の頭線、東京メトロ副都心線「渋谷駅」より徒歩10分
- 東京メトロ（銀座線・千代田線・半蔵門線）「表参道駅」より徒歩5分



青山学院大学大学院 文学研究科

文学研究科案内に関する
お問い合わせ先

〈学務部教務課文学研究科担当〉
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel.03-3409-9527
https://www.aoyama.ac.jp/faculty/graduate_literature/

2021.2.1 発行 Printed by YOSHIDA PRINTING INC.